

第２２回神戸電鉄栗生線活性化協議会 議事録

日 時：平成 26 年 11 月 20 日（木）15：10～18：00
場 所：三木市役所 4 階特別会議室

開 会

(1) 「第 2 1 回神戸電鉄栗生線活性化協議会」議事録の確認

- ・第 2 1 回協議会の議事概要について議事録の確認がなされた。

(2) 報告事項

①神戸電鉄栗生線活性化協議会規約（別表 1）の一部変更について

- ・事務局よりオブザーバーの交代に伴う規約の変更の報告があり承認された。

②神戸電鉄全線・栗生線の輸送人員について（～平成 26 年 9 月）

- ・神戸電鉄から資料 3 に基づき説明。
- ・昨年度の消費税先買いの影響が残っており、分析は難しい。
- ・平成 2 6 年度の 4 月から 1 0 月までの増減率は、栗生線定期外で+3.3%、栗生線定期で△0.3%、栗生線合計でプラス0.8%となっている。
- ・詳細を見てみると、定期外は各線とも対前年マイナスで推移している。
- ・しかし特殊要因として、栗生線の 6 月及び 9 月に定期外が大幅にプラスとなったのは、三木市の 7 0 歳以上の福祉乗車パスが、昨年度のすずらんカードが廃止され、8 日間フリーパス（1 枚あたり 1 6 回で算定）に一本化された影響が大きいと考える。
- ・昨年度は 1, 2 4 1 枚のフリーパスの交付が、本年度は 6, 7 1 0 枚と大幅に増加している。
- ・全線通勤定期のうち、三田線、公園都市線は堅調に推移していると考えている。
- ・栗生線の通学定期は、校舎の耐震補強工事に伴い、本年 9 月から 1 年間は、1 0 %近いマイナスが続くものと考えている。
- ・消費税の先買いの反動減は、通勤定期では 3 月末に発現が予想されません。
- ・全線における各月の対前年度比較としては、概ねどの月も今年度の数値が昨年度を下回っている。原因は定期外の数値が低調であることが考えられる。
- ・栗生線は 7 月までは、今年度数値が昨年度を上回っているが、8 月以降は下回っている。これは、耐震化工事終了に伴う高校移転の影響と

考えている。今後は24年度数値と比べる必要があると考える。

○以下のとおり、意見交換がなされた。

栗生線の通学定期は増加し、全線は減っている、原因を教えてください。(会長)

⇒高校耐震化工事の影響で栗生線は、8月まで増加している。全線は生徒数の減少傾向により利用者が減少しているものと考えている。(事務局)

③平成26年度における協議会の取組状況について

資料5に基づき説明。

- ・栗生線の現状や栗生線の維持存続に向けた取組に対し、理解を深めていただくために「栗生線活性化セミナー」を実施した。
- ・6月21日から11月8日まで、全5回、11会場において開催、延べ290人の方に参加していただいた。
- ・学校に対するモビリティ・マネジメントとして、高校や大学に栗生線の現状などを説明する出前授業をおこなった。
- ・6月20日から10月7日まで、5つの学校に出向き、300人を超える方々に参加していただいた。
- ・自治体職員等による率先行動として、ノーマイカーデーの実施や出張時の積極的な栗生線の活用など三木市職員が実施した。
- ・協議会ホームページのリニューアルとして、「スマイル&メッセージ」コーナーと、「教えて!!しんちゃんナビ」コーナーを開設した。
- ・また、このホームページのリニューアルにおいて、リニューアル以前と比べ、閲覧数が4倍になった。
- ・乗ろうDAY!プログラムの実施状況として、現在協議会主催事業として、5事業、後援等による事業として、7事業(1事業は台風のため中止)が開催された。
- ・栗生線利用促進活動補助金については、申請のあった5事業においては、すでに完了しており、3事業については実施中又は、今後実施される予定である。
- ・サポーターズくらぶについては、10月末日現在、1,855人の加入があり、内訳として、一般715人、神戸電鉄関係664人、自治体関係476人となっている。
- ・くらぶの会員の活動として、くらぶ会員が自ら、呼びかけを行い、9月15日に、恵比須駅の清掃活動を行っていただいた。

- ・今後も会員同士の交流や会員独自の活動の輪を広げていただければと考えている。
 - ・9月20日に第5回サポーターズくらぶを開催し、10名の方に参加していただき、今後の活動目標を確認したほか、会員それぞれの主体的な活動の報告と意見交換を行った。
 - ・協議会ホームページに新設したブログコーナーにおいて、栗生線の魅力を発信していただける「栗生線ブログ駅長」をサポーターズくらぶ会員から募集し、5月7日から6名の方にブログ駅長として、沿線のスポットなどをご紹介していただいている。
 - ・栗生線通勤カムバック補助金は、10月末現在、5人の申込者があった。
 - ・企画乗車券、割引制度の状況として、神鉄高速シニアパス、栗生線家族おでかけきっぷ、神鉄おもてなしきっぷ、三木市の神戸電鉄福祉乗車パスについては、資料のとおりが発売枚数となった。
 - ・パークアンドライド駐車場については、資料のとおりの利用があった。
- 以下のとおり、意見交換がなされた。
- ・セミナーに2回出席したが、クラブ会員がほとんどだった、一般の方にも来ていただく方策も必要ではないか。(委員)
 - ⇒広報等でお知らせしたが、さらに一般の方向けに、今後、出前出張講座も検討できると思う。(事務局)
 - ⇒広報の方法をもっと工夫し、ロコミも活用すればいいと思う。(委員)

(3) 議事

①栗生線活性化グランプリについて

- ・資料5により説明
 - ・市長賞については、応募数が少なく、応募者の地域も偏っているため「なし」としたい。グランプリ、準グランプリ、神戸電鉄賞で表彰したいと考えている。
 - ・各賞からはずれた作品を資料に基づき説明
 - ・各賞の対象作品を資料に基づき説明
 - ・神戸電鉄賞の作品を資料に基づき説明
 - ・DVDの放映(小野高校・夢野台高校)
- グランプリ候補からグランプリ作品の選定に関し、下記のとおり意見交換がなされた。
- ・どれもすばらしいし、委員それぞれの意見もあるので、投票にして

はどうか。(委員)

- ・これらの作品をよく熟知している「実務担当者」に決めていただければよいのではないか。(委員)
- ・このDVDは、一般のかたに見てもらってもわかりやすいので、地元の会合などで放映するなど、その後の活用もお願いしたい。(委員)
- ・DVDはどの世代でも見れる、良い作品だが、どちらかといえば、小野高校の方が優れていると思う。(委員)
- ・小野高校のDVDはよくできていたが、もっと、栗生線は山岳電車であることをPRしてほしかった。(委員)
- ・それでは、概ね委員の方々から意見もでたところで、利用促進・啓発部門は、小野高校に決めたいと思う。(委員)
- ・かみてつは、どこかの鉄道でもやっていたと思うので、関西学院大のほうがよかったと思う。(委員)
- ・関西学院大はいままで、協議会がやってきたことと一致する。小野高校は発想の面白みがある。(委員)
- ・神様はどなたでも受け入れられるものなのか疑問がある。(委員)
- ・小野商店街でそろばん神社を考えたが難しかった。
- ・関西学院大の方が、ストレートな提案でよかった。
- ・それでは、関西学院大の作品を、グランプリ受賞作品とさせていただきます。(委員)

②平成 25 年度協議会事業の評価及び平成 26 年度事業目標

資料 6 に基づき説明

- ・平成 25 年度は、当初、カムバック補助金を 20 万人に目標設定していたが、結果は約 1 万 6 千人と大きく下振れした。
- ・その結果、目標値の 31 万 8 千人から、実績は 6 万 4 千人となった。
- ・平成 26 年度については、現計画に基づく事業を実施したとしても、総合連携計画に基づく目標値である 700 万人は達成しない見込みである。しかしながら、今後も 700 万人の達成に向けて、引き続き追加施策を検討していく。

○以下のとおり、意見交換がなされた。

- ・昨年度は、消費税の先買い、耐震化による高校移転、積雪による利用者の増加など、特殊要因による利用者の増加があった。このため、672 万人からこれらの特殊要因を除く必要があると考える。特殊要因を除くと、650 万人台で、連携計画目標の 700 万人台から 40 万人から 50 万人程度足らないのではないかとみている。(事務局)

- ・特に三田線の利用者数が下がってきたら、さらに厳しい状況にある。なにか転換するきっかけがあるのではないか。他の手法も考えないといけな時期に来ているのではないかと考える。
 - ・活性化再生法の改正について説明させていただきます、資料7をご覧ください。
 - ・人口減少が進む中、地域活力を維持するため、地域公共交通が果たす役割が大きくなっている、一方で少子高齢化により、地域の公共交通は厳しい状況下にある。
 - ・このような状況の中、従来は交通事業者にまかせっきりであった枠組みから、脱却し、地方公共団体が先導に立って、地域の公共交通の体系を形成することが重要である。
 - ・法案の概要として、国の役割としては、交通政策基本法に基づく、基本理念の具体化やまちづくりとの連携を明確化することがあげられます。
 - ・また、地方公共団体の役割としては、地域公共交通網形成計画を策定することができ、従来の総合連携計画に追加し、コンパクトシティの実施に向けたまちづくりとの連携や、地域全体を見渡した面的な公共交通ネットワークの再構築を行うこととなります。
 - ・また、交通網形成計画に基づき、関係者の同意を得て、地域公共交通再編実施計画をたてることにより、地域公共交通再編実施事業を行うことができます。
- これらのことを実施することにより、地域にとって最適な公共交通ネットワークの実現を強力に推進していくことを目指します。

③神戸電鉄㈱からの提案に対する回答について

資料7に基づき説明

- ・地域の公共交通を最適な形へ再構築するため、連携計画に「地域公共交通再編事業」の実施を明記することについての回答。
 - ・地域公共交通再編実施計画を作成する場合には、関係する交通事業者全ての合意が必要であるため、現時点で計画に「地域公共交通再編事業」の実施を明記することはできない。
 - ・地域全体を見渡した最適な交通手段を有機的に組み合わせた公共交通ネットワークを再構築することは重要であることから、12月中に必要な事業者を選定し、協議の場を設けるよう調整する。
- ・無料シャトルバスの運行についての回答。

三木市：既存のバス路線が運行している地域では、既存の交通網に影響を及ぼす可能性があること、また、バス路線がない地域においても、一部地域のみで無料シャトルバスを運行することは公平性を欠くため、行えない。

小野市：平成 20 年度に檜山駅と工業団地を結ぶシャトルバスの試験運行を行ったが、思うような効果が得られなかったため運行は考えていない。

神戸市：既に住宅地と駅を結ぶバス路線がある。既存エリアで無料バスを運行すると、駅までの既存路線撤退を招く恐れがあるため、考えていない。

・既存バス路線のダイヤ改善についての回答。

三木市：既存バス路線のダイヤ改善・ダイヤ調整をバス事業者に対し要望する。

小野市：小野駅と駅周辺のバス利用者を比較するとバス利用者は 10 分の 1 程度である。従って競合していないと考えている。

神戸市：バスとの接続駅では、粟生線が 15 分間隔で運転されているため、待ち時間の長い乗継はほぼないものと理解している。

・無料シャトルバスに代わる通勤利用者拡大あるいはそのほか利用促進施策についての回答。

三木市：H23 年度より「三木市神戸電鉄福祉カード」の交付を実施しており、本年度は「神鉄 8 日間フリー乗車券」のみにしたことで、年間 10 万人の効果をあげる見込みである。本年度から、新規雇用者を対象に通勤定期助成を開始した。（フレッシュマン通勤定期助成）

小野市：小野駅では現在約 2 万人のコミュニティバス利用者が乗降している。これらをさらに拡充し、粟生線の更なる利用促進を図る。

神戸市：シニア層、神戸市内 70 歳以上を対象とした割引施策を検討しており、粟生線のみならず神戸電鉄全線での利用促進に取り組む。市営住宅の建替、整理を行い、余剰地を民間住宅とするなど、沿線人口増加、通勤利用者拡大を図る。

・各市より、駅中心のまちづくりについて、資料を基に行った。

・協議会に関する見直しについて、沿線地域が主体となった、取組を進めるために、裾野を広げることを目的とした、協議会の追加やワーキンググループの構築の提案に賛同し、各団体との意見交換の場を 1 2 月中に設ける

などを、資料をもとに説明をおこなった。

○以下のとおり、意見交換を行った。

- ・路線バスとの協議の場をどこにもうけるのか、回答のみとならぬよう、今後も進めていただきたい。(委員)
- ・3月に700万人を達成するために実現できるような提案を神戸電鉄からさせていただいた。今年度も実質、計画目標値から40万人から50万人不足している。そのような状況を踏まえて、議論していただきたい。
- ・神戸電鉄としては、バスの再編の実現が目的ではなく、700万人達成するには、そのような方法しかないのではないかと考えているだけである。引き続き、700万人を目標としていくことになるが、スピード感、期限感が重要。委員の見直しなどは、3月に提案した、スピード感を持ってお願いしたい。
- ・ぜひ、いろいろな方が委員として検討できる場を設けてあげていただきたい。
- ・再編実施事業を行うには、まず、交通網形成計画を作らなければならない。まずは粟生線のあり方を考えていただく必要があると考える。
委員はどのような事業をするかにより、関係者を決定していただければよいと考える。

(4) その他

神鉄・高速シニアパスの現状と今後の見通し

- ・資料8により説明
- ・神戸電鉄より神鉄・高速シニアパスの現状と今後の見通しとして、同パスは減収につながっていること、同パスの発売が契機等となって、三木市高齢者パスや神戸市の新たなシニアパスにつながり、一定の役割を果たしたと考えられることから、来春より発売中止する。
- ・なお神戸電鉄では、今後とも高齢者の利用促進につながる施策を検討、実施していくこととする。

閉 会